

幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局 橋本守行
電話090-7746-8689

第 17 号
平成 31 年 3 月 1 日

越前町・みやま市児童交流事業開催



幸若舞を縁として、合併前の旧朝日町、旧瀬高町（福岡県）時代から続けられていた児童交流事業の第二十四回事業がこのほど行われました。

まず、昨年十一月二日から四日にかけて、小学校児童十六人と引率者を含めて二十人が福岡県みやま市（旧瀬高町）を訪問しました。みやま市では、歓迎会に出席するとともに、地元の花火工場見学、幸若舞などの伝統芸能鑑賞、みかん狩りなどを楽しみ、交流を深めました。

また、今年一月二十五日から二十七日にかけて、

みやま市の小学校児童十六人と引率者を含めて、二十人が越前町を訪れました。本町では町長や教育長も参加して、歓迎会を行うとともに、越前がにミュージアム、プラントピア、オタイム・ヒルズ、陶芸館などで当町の小学校児童と交流しました。

プラントピアでの幸若舞の説明では、村上学芸員や本会の辻会長なども参加しました。

幸若舞発祥の地・越前町から遠く約八〇キロメートル離れた九州・みやま市へ伝播残されている歴史の不思議に思いをいたしたことでした。



内藤洪基先生を悼む

顧問・山口信嗣



天王区内藤洪基先生が一月二十九日に逝去されました。かわら版編集子の依頼で、先生の在りし日のお姿を記します。『越前幸若舞を知る一〇〇項』にある寛政三年(一七九

坂田(桃井)九郎左衛門屋敷図は内藤武左衛門家文書です。

先生は、平成二年から同十六年まで、朝日町誌編纂委員をされた。資料の蒐集・筆稿等のお手伝いもして頂いた。同十二年に西尾市との友好の会設立で、初代会長を務められた。西尾城跡にある友の会の碑文の揮毫もされている。達筆な方である。七十歳頃から俳句にも親しまれ、伊藤柏翠・有馬朗人に師事された。県内外での大会では、度々特選されている。町古文書の会でもご一緒させて頂いた。ご遺族から先生の経歴書を頂いたので、その概要を記します。

昭和大正同同
和十十六十
三六十六十
年三六年十
年三六年十

同二十八年
同二十八年
同二十八年

同二十八年
同二十八年
同二十八年

同五十九年
同五十九年
同五十九年

当十八代長として誕生
県立今立農学校卒業
県立青年師範学校卒業
敦賀連隊に入隊、満洲な
ど転戦し、朝鮮で終戦。
朝日第一部隊青年学校に
教師として着任。そのあ
と糸生・清水・宮崎の学
校に。
清水南小学校校長として
定年退職。

戦後、食糧不足のとき、教師・村民・生徒一丸となって、農園の開拓、製茶作業など生産教育にお力を。
教育の真髄は、師弟一如・人格の形成にあることを信条とされた。清水南小学校の校訓を「あかるく、直く、たくましく」と定め校訓碑を建立された。
天王区実相寺の本堂落慶にも尽力された。享年九十四歳、当「幸若舞の里づくり会」会員内藤俊三町長御夫妻のお父様です。御冥福をお祈りいたします。

語り部の会例会開催 1月11日

新年最初の語り部会例会が1月11日(金)午後7時半から、勤労青少年ホームにおいて、辻会長や青山部会長をはじめとして、8名の参加により開催されました。

この中で語り部用のテキストを5月までに完成させることを確認しました。

また新年度の行事として、5月に予定される西田中区健康ウォークに参加するほか、7月には福井市において、語り部ガイドの研修を受けること、9～10月には現場研修を行うことを計画しました。

幸若会新年会開催

1月25日



恒例の幸若会新年会が、さる一月二十五日午前十一時から、西田中新月亭において、男子六名、女子十名、計十六名の参加により行われました。宴に先立ち、山口顧問より「飛鳥井雅縁」について説明がありました。飛鳥井家は、田中庄・上川去を所領とし、雅縁は上川去で生まれた飛鳥井家六代の南北朝時代の歌人である。四十歳で出家し宋雅と号した。

その後、天王村の応神天皇宮の造営を行い、七十歳のとき同宮に七日間参籠し、大般若経などを奉納した。翌年七十一歳で死去したが、京からの道中で詠んだ「宋雅道すがらの記」を遺した。町内でも八坂神社に遺存するほか、上川去区春日神社境内に宋雅社碑がある。幸若舞の祖・桃井直詮は、同時代に生きて、雅縁より約四十歳若年であるが、直詮ら領内の芸能家たちが上京する際などに陰ながら援助していたのではないかと、この山口顧問の説を披露された。なお、第七五回幸若講座が、第二四項「山中常磐物語絵巻」をテーマに、一月二二日開かれました。

大隆寺住職が漫画本「日蓮」を出版



幸若ゆかりの寺である越前町岩開の大隆寺住職・木田慧明氏がこのほど漫画本「日蓮」(上巻)を出版されました。明治のはじめ幸若子孫の榎本敬次郎(西田中初代戸長)は、当時の住職・日光と意気投合し、それまでの曹洞宗から法華宗に改宗した。敬次郎の句碑が同寺に建てられている。木田住職は、二〇二一年が日蓮聖人ご降誕八百年記念にあたることから、同聖人の生涯を平易に紹介する漫画本の執筆を思い立ち、長女の蓮華さんの作画協力を得て、刊行に至ったものである。大隆寺 ○七七八―三四―二二三九



大隆寺 (岩開)

「幸若舞懇話会」 開かれる

幸若舞の里づくり会は、幸若舞のあり方や会そのものの運営など多くの課題を抱えておりますが、これらについて、関係者の意見を聞くためみだし「懇話会」が2月24日午前10時から、幸若文化情報センター会議室で開催されました、出席者は、辻会長、澤崎副会長をはじめ関係者11名の方々です。



この会でも出された主な意見は次のようです。

- ①会の活動にインパクトがない。
- ②若い女性は難しい。リタイア後の男性をもっと積極的に勧誘したらどうか。
- ③PRのぼり旗をもっと設置したらどうか。
- ④現代版幸若舞を白山神社に奉納するような位置づけとしたらどうか。

- ⑤取り壊された朝日郷土資料館に係る衣装が有った気がする。
- ⑥町内の伝統芸能では、昭和31年に終了した「糸生歌舞伎」の例が参考になる。
- ⑦幸若かわら版を年1回ぐらいは町内全戸に配布したらどうか。
- ⑧マスコットキャラクターをつくったら。
- ⑨丹南CATVなどのメディアの利用
- ⑩DVDの製作その他

幸若文化情報センター資料室保管図書一覧 その5

資料名	著者	出版社	出版年月	摘要
幸若舞曲集 序説	笹野堅	臨川書店	昭和49年11月	
幸若舞曲集 本文	笹野堅	臨川書店	昭和49年11月	
高天神城の総合的研究	小和田哲男	静岡県大東町	平成 5年 9月	
踊の今と昔	柳田國男		明治44年 4月	
越前朝倉氏の文化	宮永一美			
筑後武士	江崎龍男	芸文堂	平成 2年 8月	
やしま 享保七年写大江本				
高天神の跡を尋ねて	藤田鶴南	中島屋	昭和63年 1月	
越前猿楽の本貫の地について	杉浦茂	芸能史研究会	昭和61年 1月	
舞々と幸若	庵途巖		昭和41年 2月	
舞々と幸若	室木弥太郎		昭和41年 6月	
羅生門の鬼	島津久基	平凡社	昭和50年 3月	
真名本曾我物語2	笹川祥生ほか	平凡社	昭和63年 6月	
幸若舞曲と戦国軍記	服部幸造	説話・伝承学会	平成10年 4月	
義経記 曾我物語	高木卓	筑摩書房	昭和36年12月	
曾我物語の基礎的研究	村上学	風間書房	昭和59年 2月	
中世芸能題目立詳解	金井清光	明治書院	昭和61年11月	

当面の予定

- | | | | |
|-------|----------|-------|---------------|
| 3月22日 | 第76回幸若講座 | 4月14日 | 佐々生墓地清掃、大隆寺昼食 |
| 3月14日 | 三役会議 | 5月12日 | 幸若会第4回総会 |
| 4月12日 | 幸若会顧問会議 | | |